

博物館だより

Vol.12 No.1
2019年12月25日発行



横須賀市自然・人文博物館
神奈川県横須賀市深田台95
046-824-3688

<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp>



もくじ

巻頭特集：特別展示「おいでよ!まぼりの森 -馬堀自然教育園の60年とこれから-」……	1
水槽で楽しむ!馬堀自然教育園~シダ・コケを中心としたテラリウム ……	2
冬が旬、縄文人もカキが好き! ……	3
孫悟空ではありません! ……	3
天神島での注意事項 天神島臨海自然教育園 ……	4
「自然と歴史のツアー」と講演会を開催! 馬堀自然教育園・本館 ……	4

巻頭特集 特別展示「おいでよ!まぼりの森 -馬堀自然教育園の60年とこれから-」を開催

2019年夏の特別展示は開園60周年を迎えた博物館付属の「馬堀自然教育園」がテーマでした。

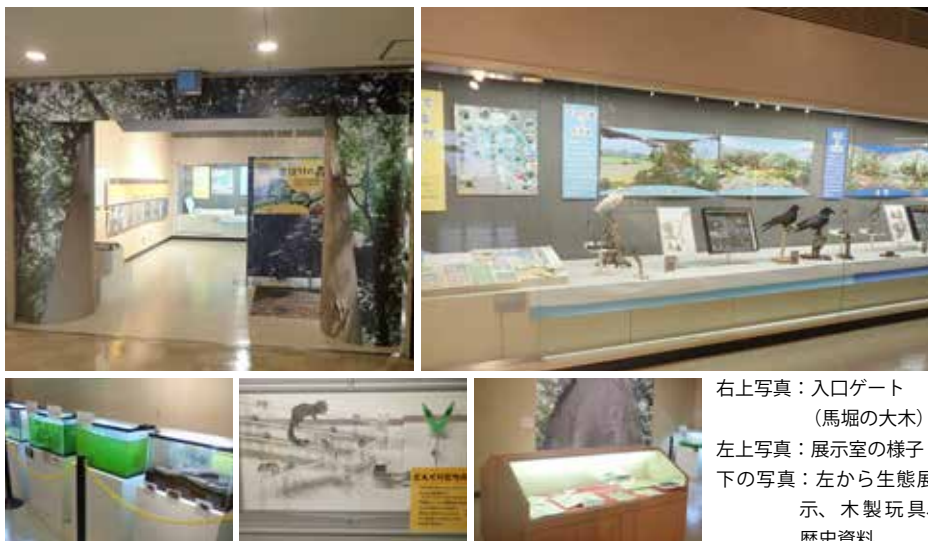
馬堀自然教育園は、三浦半島の特徴的な自然が半世紀以上にわたって残されている場所であり、2016年には横須賀市の天然記念物に指定されています。木々が深く茂り起伏に富んだ園内の観察路からは、天然記念物を構成する様々な動植物を観察することができます。

また、教育園は1897年(明治30年)から1945年(昭和20年)まで陸軍重砲兵学校施設として利用されてきたため、歴史を語る遺構も観察路沿いから間近に見ることができます。都市化が進む横須賀市内にあって貴重な自然体験ができる環境であると同時に、横須賀の歴史を感じることができる馬堀自然教育園の展示によって、60年で大きく変わった「横須賀の環境」を改めて知り、横須賀の「自然」や「歴史」の遺産を未来へどのように残していくかを考える機会となりました。
〔展示期間：令和元年7月27日(土)～令和元年11月4日(月・祝)※終了しました〕

【展示のみどころの振り返り】

■馬堀の大木

教育園のシンボルであるシラカシとムクノキの巨木をイメージしたゲートを制作しました。



右上写真：入口ゲート
(馬堀の大木)
左上写真：展示室の様子
下の写真：左から生態展示、木製玩具、歴史資料

■馬堀の生き物がやってきた!

園内に生息するアカハライモリ、トウキョウサンショウウオ、ミナミメダカ、ヤマトヌマエビ、カブトムシ・クワガタ類の生態展示をしました。

■どんぐりのゆくえ

どんぐりに見立てた球をレールの上に転がして遊ぶ木製玩具を制作しました。木から落ちたどんぐりが無事に発芽できるのか!?タイワンリスに食べられたり、アカネズミに埋められたりする仕掛けもあります。

■歴史資料も公開!

馬堀自然教育園が陸軍重砲兵学校だったころの資料の紹介や、明治大学平和教育登戸研究所資料館とのコラボ展示「横須賀にあった極秘機関一陸軍登戸研究所と横須賀」を実施しました。

(植物学担当 山本)

編集後記

今年度第1号の「博物館だより」では、馬堀自然教育園開園60周年を記念した特別展示の内容を特集しました。馬堀自然教育園には自然だけではなく歴史の面でも見どころがあります。分野を超えた場になると嬉しいです。(山本)



水槽で楽しむ！馬堀自然教育園 ～シダ・コケを中心としたテラリウム～

馬堀自然教育園と博物館本館には、それぞれ水槽展示が設置されています（2018年2月14日設置）。設置されたのは「テラリウム」という形式のもので、水槽内に陸上の生物が飼育・鑑賞できる環境を作ったものです。馬堀自然教育園には一つの水槽内に陸生と水生の生物の環境を組み合わせた「アクアテラリウム」（写真1）、博物館本館にはコケを中心とした「苔（コケ）テラリウム」（写真2）があります（※）。

博物館付属の馬堀自然教育園は1959年に開園し、2019年に60周年を迎えました。全体的にマテバシイを中心とした林に覆われていることと、園内に湧水地があることから、日陰や湿り気が多い環境を好む生物が多くみられます。



(写真1) アクアテラリウム



(写真2) 苔（コケ）テラリウム

日陰や湿り気が多い環境を代表する植物には、みなさんご存じのシダやコケがあります（写真3）。博物館の研究報告（自然科学）第66号（写真4）によれば、馬堀自然教育園内のシダ類は27種、コケ（蘚類と苔類）は24種が確認されています。馬堀自然教育園は様々なシダやコケをじっくりと観察するのに適している施設であり、これらの植物は同園の魅力の一つでもあるのです。

馬堀自然教育園の魅力の一つであるシダやコケをはじめとする日陰や湿り気が多い環境を代表する植物を水槽に集め、同園の魅力を分かりやすく発信するための試みとして、テラリウムを設置することにしました。馬堀自然教育園の園路沿いから様々な植物を採集して水槽に移植するとともに、同園がホタル類の生息する水辺もあることから、アクアテラリウムにして下の池からヌマエビ類やメダカを移動しました。博物館本館では馬堀自然教育園のPRのため、ミニチュア版のテラリウムとして小さな苔テラリウムを飾りました。

馬堀自然教育園の魅力の一つが詰まったアクアテラリウムは、馬堀自然教育園の学習棟にあります。季節によって元気に生育する植物が変わったりするので、ときどき見に来ていただけましたら幸いです。本館では自然館2階の受付カウンターにあります。お立ち寄りの際にはぜひご覧ください。

（※ 全国科学博物館活動等助成事業〔平成29年度〕による交付金で制作しました）

（昆虫・陸上無脊椎動物担当学芸員 内船）



(写真3) 馬堀自然教育園内（シダの谷）



(写真4) 研究報告（自然科学）第66号



冬が旬、縄文人もカキが好き！

冬本番、お鍋を食べて身も心も温まりたい季節です。お肉もいいですが、三方を海に囲まれた三浦半島ならば、やっぱり新鮮な魚介と野菜がマリアージュする海鮮鍋が一番でしょうか。海鮮鍋に使われる魚介といえばシャケ・アンコウ・ホタテ・カキなどが代表格ですが、これらのなかでカキは三浦半島の縄文人によって約一万年も前から採取されていたことが知られています。

夏島貝塚をはじめ、平坂貝塚・茅山貝塚・吉井貝塚など三浦半島で縄文時代早期に形成された貝塚のいずれからも大量のマガキが出土しています。マガキは現代でもスーパーなどでよく目にする秋から冬にかけて旬を迎える最も身近なカキの一種です。磯や河口付近の岩に付着しているのをよく見かけますが、本来は淡水と海水が混ざりあう汽水域の干潟砂泥のなかで成長します。このこ

とから、縄文時代早期の三浦半島には、栄養豊富な干潟が広がっていたことがわかります。

調理方法としては、水を張った土器に熱く焼いた石を入れて沸騰させ、そのなかにカキを入れて煮て、火が通り殻が開いたら身ははずしていたと考えられています。そのため、縄文時代早期の遺跡からは大量の焼け石が出土します。膨大な量を採取していることから、煮沸後乾燥させて保存食あるいは交易品に加工していた可能性が高いようです。ただし、海のミルクと呼ばれるほど栄養豊富なカキですから、煮汁を捨てていたとも思えません。他の食材とともに煮込んだカキ鍋、さらには最近ブームの「カキ小屋」よろしく焼きガキに舌鼓を打つ日もあったかもしれません。

(考古学担当 稲村)



茅山貝塚出土マガキ



縄文時代早期の土器と調理方法



孫悟空ではありません！

ショウゴウクという言葉を知っていますか？漢字にすると正五九となり、正月（1月）・5月・9月のことです。一般的には、その月に結婚式や引越しをしない方がよいか、神社仏閣に参拝するのがよいとされています。

では、三浦半島ではどうでしょうか？もちろん一般的な習わしもありますが、各地域に特徴的なものもあるようです。例えば、津久井のある地域では、正月（1月）・5月・9月の各24日に厄神様（やくじんさま）とよばれる行事があります。どのような行事かということ、その日の夕方、ホラ貝の合図と同時に道端で赤飯の握り飯を配ります。なぜ道行く人々に赤飯の握り飯を配るようになったかについての言い伝えは残っていません。しかし、厄神様という呼びかたからすれば、疫病や災いをもたらす悪い神様を追い出したり、無害なものにしたりするための行事だと考えられます。例えば、道行く人々が赤飯を食べることで生命力を回復し災いに負けないという考え方があります。または、道行く人々を悪い神様に見立てて、赤飯をあげ喜ばせて無害化するという考え方もあります。福島県のいわき地方では、悪い神様は赤飯が好きなので、村の端に赤飯の握り飯を供えて村から出て行ってもらおうという風習もあったようです。津久井以

外の地域でも、神社にお参りに行ったり、お札をもらったりすることがあるようです。佐島では5月はショウブ月（端午の節句のこと）なので船を新造しない（船の出来を一か八かの勝負事にしないため）とか、ショウゴウクにはいろいろな慣わしがあるようです。

正月（1月）・5月・9月は、行事が多かったり季節の変わり目だったりして疲れやすい時期でもあります。健康には気をつけましょう！という昔の人々からのメッセージと受け止めるのがよいかもしれません。

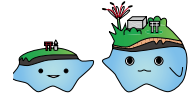
(民俗学担当 瀬川)



厄神様の行事でほら貝を吹いている様子

天神島での注意事項

天神島臨海自然教育園



【天神島のアブナイヤツ】

2019年9月1日、来園者から「茂みから蜂の巣が見える」と連絡いただき、職員が確認したところ、バレーボール程の大きさの蜂の巣を発見しました。プロに駆除をしてもらったコガタスズメバチの巣の中には、4段の巣盤があることがわかりました。残念ながら女王蜂は確認できませんでしたが、巣の中には働き蜂が約150匹も見つかりました。

(天神島臨海自然教育園 小長谷)



撤去したコガタスズメバチの巣と内部

【台風の爪痕】

2019年9月と10月に関東地方を襲った台風15号、19号は、教育園にも大きな影響をもたらしました。台風15号により園内の木々は折られ、ひどいものだと根元から倒れているものもありました。台風19号では、漂流物をともなった高潮により園内の保護柵が破壊され、移動してきた砂によって海岸植物や園路が埋められてしまいました。60cm以上もの砂が積もった場所もありました。現在、来園者の皆様が教育園を楽しむよう整備を進めています。

(天神島臨海自然教育園 小長谷)



折れた枝の重みに耐えられず裂けた幹(左)と破壊された保護柵(右)

「自然と歴史のツアー」と講演会を開催！馬堀自然教育園・本館

特別展示に関連し、11月16日(土)に「自然と歴史のツアー」を馬堀自然教育園で開催しました。講師は自然と人文の分野の学芸員に加え、明治大学平和教育登戸研究所資料館の山田 朗館長と塚本百合子学芸員にもご解説いただきました。神奈川県において、旧日本陸軍の遺構を保存・公開している博物館施設は、当園と登戸研究所資料館のみになります。20人程で園内を散策し、馬堀自然教育園を「自然」と「歴史」それぞれの視点から見直すことができました。

さらに、この日の午後は、博物館本館の講座室にて講演会「横須賀にあった極秘機関 GPSO 一陸軍登戸研究所と横須賀」(講師：山田館長)を開催しました。

かつて旧日本陸軍の秘密戦を支えた登戸研究所の職員は、戦後、米海軍横須賀基地内の極秘機関「GPSO」において米国のスパイ活動を支えていたのです。「登戸」と「横須賀」は、一見すると関係が薄いようにも思われますが、登戸研究所資料館の調査・研究の成果によって、このような意外な関係が明らかになりました。

講演会の来場者は100人を超え、多くの方が横須賀の戦争の歴史に興味をもっていることがうかがえました。

(植物学担当 山本)



左：「自然と歴史のツアー」の様子
右：講演会の様子(上)とポスター(下)

メールマガジン配信中！

メルマガに登録して、最新情報をGETしよう！！

展示やイベント、読み物「学芸員 自然と歴史のたより」など最新情報を配信しています。

◎ 登録は簡単！QRコードを読み込んで、E-mail アドレスを入力するだけ！！ ⇒

① 右のQRコードを読み込み、

博物館ホームページ内の「メールマガジン登録・変更・解除ページへ」をクリック！

② 「登録・解除フォーム」にE-mail アドレスを入力して「登録」ボタンを押せば登録完了！

URL ⇒ <https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/mailmagazine>

